

人権・同和問題に関する益田市の現状と課題

資料5

1.人権全般について

【現状】	【課題】
①今の益田市は人権が尊重される社会になっているか？ 「どちらかといえばそうは思わない」「そうは思わない」 32.2%	●改善には、各人権課題に対する現状分析と課題に対する具体的施策が重要となり、計画改定後、アンケートを実施するなど施策の実効性について見直しを図る必要がある。
②自分自身の人権意識は5～6年前に比べて高くなっているか？ 「どちらかといえばそうは思わない」「そうは思わない」 32.8%	●引き続き人権意識の啓発を行っていく必要がある。
③「結婚相手を決めるときに、相手方の身元調査をすること」についてどう思うか？ 「当然のことと思う」「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方ないと思う」 [H23] 50代 47.0%、60代 41.9%、 70代42.0% [H28] 50代 21.1%、60代 25.0%、 70代49.2% 「間違っていると思う」 [H23] 40代 47.1%、50代 30.1%、60代 32.6%、70代 22.0% [H28] 40代 73.7%、50代 66.2%、60代 54.5%、70代 29.3%	●年代別にみると、50代・60代で肯定する回答が減少し、否定する回答が増加する中、70代以上で、肯定する回答が約半数(前回42%→今回49.2%)、否定する回答が3割弱(前回22%→29.3%)。高齢層に対する意識啓発が必要である。
④自分自身が受けたと感じた差別や人権侵害は？ i「職場における待遇や上司や同僚などの言動」 [H23] 18.5% ⇒ [H28] 24.9% ii「地域社会におけるしきたり・慣習・役割分担や、近隣の人などの言動」 [H23] 12.9% ⇒ [H28] 20.0% iii「公務員等の対応や発言」 [H23] 9.9% ⇒ [H28] 11.2%	i 職場における差別や人権侵害の実態を把握するとともに、改善に向けた具体的な取組が必要である。 ii 差別や人権侵害と5人に1人が感じているという結果は、地域に根深い古からの意識が払拭されていないためだと感じられる。改善に向けて分析、具体的取組が必要ではないか。 iii 前回と比較し割合が増えており、分析や数値を減少させるための具体的取組が必要である。日頃から公務員としての人権意識をもって対応する必要がある。
⑤自分自身が差別・人権侵害を受けたと感じた後どうしたか？ 「だまっがまんした」 33.6%	●相談窓口の周知を図るとともに、相談しやすい雰囲気づくりや気軽に相談できる環境を整備していく必要がある。
⑥関心のある人権課題は？ [H23]①障がい者11.8%、②拉致問題8.8%、③犯罪被害者・インターネット人権侵害8.3% [H28]①障がいのある人16.8%、②高齢者11.8%、③インターネット人権侵害11.2%	●前回調査と比較すると、子ども(前回 7.2%→今回 9.5%)、高齢者(前回 7.9%→今回 11.8%)、障がいのある人の関心度は増加している。メディアの影響もあると推測できるが、子ども・高齢者・障がい者に対する虐待の未然防止対策、意識啓発等の取組が必要である。
⑦今後、人権尊重社会の実現に向けて行政施策として必要な取組は？ i「学校や地域における人権教育の充実」 24.7%(H28①) ii「社会における不公平な格差を解消するための施策の充実」 14.8%(H28②)	i 学校で学ぶ子どもとは違い、大人は自ら進んで学ぶ必要がある。大人に対する啓発活動が必要である。 ii 既存の施策や事業が不公平な格差解消のために利用しやすいものになっているのか、再検証し、さらなる充実に努める必要がある。

2.女性の人権について

【現状】	【課題】
<p>○特に問題だと思うこと</p> <p>[H23]①家庭内での家事や育児の分担 17.7%</p> <p>②職場での給与格差や役職などの昇任 14.3%</p> <p>③採用や就職の際の男性との取扱いの差 11.8%</p> <p>[H28]①セクハラ・マタハラ 21%、</p> <p>②職場での採用、昇進、賃金等、男女の待遇に差がある 17%</p> <p>③男女の固定的な役割分担意識がある 16.9%</p>	<p>●意識調査では、セクハラ・マタハラ、職場での男女の待遇に差があるなど、職場における課題について問題意識を持っている方が多く、実態の把握を行いながら改善に向けて具体的に取り組む必要がある。</p> <p>●地域や職場をはじめ様々な場面で、男女の固定的な役割分担意識の改善に向けた取組が必要である。</p> <p>●DVと回答した人が前回調査より増加している。(前回 8.7%→今回 12.8%)若い世代への普及啓発による問題意識の向上が影響していると推測される。引き続き意識啓発に努める必要がある。</p>

3.子どもの人権について

【現状】	【課題】
<p>○特に問題だと思うこと</p> <p>[H23]①すこやかに育っていない 21.7%、②いじめ 18.7%</p> <p>③有害情報の氾濫 16.1%</p> <p>[H28]①いじめ 27.8%、②虐待 26.2%</p> <p>③いじめや体罰、虐待を見て見ぬふりをする 20.9%</p>	<p>●仲間はすれや無視、暴力や嫌がらせ、いじめに対する子どものための相談・支援体制の充実が求められる。</p> <p>●子どもの人権を守るため、保育・教育における子ども目線での意識啓発活動が必要である。</p> <p>●いじめや体罰・虐待への課題意識が高いことがわかる。いじめは、いじめ防止対策推進法に基づき、各学校ともいじめ防止の基本方針を定めいじめの未然防止及び早期発見に努めている。体罰・セクハラは、各学校とも相談窓口を設置し児童生徒に周知を図るとともに、防止のための研修等を積み重ねることが重要である。虐待の疑いがある場合には速やかに児童相談所に通告を行い子どもの命と人権を守っていくための安全確保に努めなければならない。そのためにも、学校・教育委員会・子育てあんしん相談室・人権センター等の連携が必要不可欠である。</p>

4.高齢者の人権について

【現状】	【課題】
<p>○特に問題だと思うこと</p> <p>[H23]①収入が十分でない 20.2%、②家族の希薄化 17.3%、</p> <p>③老人ホームなど福祉施設整備 11.8%</p> <p>[H28]①悪徳商法や詐欺被害 20.3%、②在宅生活支援体制が不十分 19.1%</p> <p>③働ける場所や能力発揮する機会の不足 14%</p>	<p>●高齢者をターゲットにした悪徳商法や詐欺被害が多いことに問題意識を持っており、今後も注意喚起が必要であるとともに、警察や消費者センター、弁護士などとのさらなる連携強化が求められる。</p> <p>●「在宅で生活する場合の支援体制が不十分」と回答した人が2番目に多い。介護者の急病時の緊急的な入所先が不十分であったり、夜間訪問サービスの未整備など、サービスの基盤整備が求められる。</p> <p>●「病院や福祉施設で虐待を受けること」と回答した人(12.8%)が比較的多く、要介護施設従事者向けの継続的な研修の実施が必要である。</p> <p>●成年後見制度に関して、益田圏域においては、専門職後見人が不足している課題に直面しており、市民後見人の養成と同時に市民後見人が活動できる体制整備が必要となっている。</p> <p>●養護者からの虐待の通報の多くは、介護支援専門員などの福祉関係者が最も多い傾向にあるが、民生委員や地域住民からの通報も多く、地域に出向いての講演会を通じて、虐待に関する普及啓発や権利擁護の意識醸成を育む必要がある。</p>

●今後、人権尊重社会の実現に向けた必要な行政施策として、「学校や地域における人権教育の充実」と回答した人が最も多かったが、認知症高齢者への理解の観点からいうと、幅広い年齢層への認知症普及啓発を図り、地域での理解者を増やしていく必要がある。

5.障がいのある人の人権について

【現状】	【課題】
<p>○特に問題だと思うこと</p> <p>[H23]①日常生活を支援する施策の充実 18.1%</p> <p>②障がいのある人を正しく理解するための教育・啓発活動 17%</p> <p>③障がいのある人の積極的な雇用 14.4%</p> <p>[H28]①障がい、障がいのある人への理解や認識が不十分 26%</p> <p>②働ける場所や能力を発揮する機会の不足 17.6%</p> <p>③虐待、避ける、傷つける言葉を使う 12.9%</p>	<p>●H28.4.1障害者差別解消法が施行されたこともあり、取組を具現化する必要がある。</p> <p>●障がいや障がいのある人への理解・認識を深めるための意識啓発、研修等行っていく必要がある。</p> <p>●個人の意思を尊重しながら、働ける場所や能力を発揮する機会を広げる取組を行う必要がある。</p> <p>●虐待の未然防止のための啓発とともに、発生時の相談・支援体制を充実させる。</p>

6.同和問題について

【現状】	【課題】
<p>①同和問題の認知経路</p> <p>[H23]①学校の授業 28.9%、②家族・親せきから聞いた 21.4%、③テレビ、映画など 9.5%</p> <p>[H28]①学校の授業 30.9%、②家族・親せきから聞いた 18%、③講演会、研修会など 9.4%</p>	<p>●同和問題の認知経路について、学校の授業が前回調査より高くなっており、学校教育が果たすべき役割が重要であることが分かる。</p> <p>●家族や親せきから、正しい知識を聞き、正しく理解しているのか？正しい知識を習得し理解する学びの場が必要である。</p>
<p>②益田市における同和問題に起因する差別の存在</p> <p>①わからない 37.5%、②昔ほどではないがあると思う 33.7%、③ないと思う 17.5%</p>	<p>●差別はないと思うという回答について、自分とは関係ないと決めつけてしまうおそれがある。差別解消に向けての継続的な啓発が必要である。</p>
<p>③同和地区出身者との結婚</p> <p>i 子どもの結婚</p> <p>「家族や親せきの反対があれば認めない」4.7%</p> <p>「絶対に結婚を認めない」2.0%</p> <p>ii 自分自身の結婚</p> <p>「家族や親せきの反対があれば認めない」10.5%</p> <p>「絶対に結婚を認めない」4.5%</p>	<p>●結婚差別について、未だに誤った認識をもっている人が多いことがわかる。子どもが学校において、正しい認識を得たとしても、大人により正しい学びが否定されることもありえる。学校においては、児童生徒への教育の推進とともに保護者や地域を含め啓発を行っていく必要がある。</p> <p>●「家族や親せきの反対があれば認めない」「絶対に認めない」と回答した人もおられ、今なお根強い差別意識が残っている。同和問題についての正しい知識を学び理解を深めるとともに、差別をなくす教育・啓発を積極的に行っていく必要がある。</p>
<p>④同和問題に関する人権上の問題</p> <p>[H23]①結婚問題 28.2%、②身元調査 21%、③差別的な言動 14.5%</p> <p>[H28]①結婚問題 23.8%、②身元調査 15%、③わからない 14.1%</p>	<p>●今回調査では、わからないと回答した人がいたので、同和問題に対する正しい知識の習得が必要である。</p>

<p>⑤同和問題の解決に対する考え方</p> <p>[H23]①市民の一人として解決に向け努力すべき 46.9%、②よく考えていない 20%</p> <p>③成り行きにまかせるより仕方ない 12.6%</p> <p>[H28]①市民の一人として解決に向け努力すべき 38.7%、②よく考えていない 31.2%</p> <p>③成り行きにまかせるより仕方ない 14.2%</p>	<p>●よく考えていないと回答した人が31.2%で、無関心が3割を占めている。問題を意識しなくてよい環境ができていても考えられ、どうすれば問題意識を持ってもらえるかが課題である。また、無関心は差別につながる可能性もあり、自己課題化を図っていくことが大切である。</p>
<p>⑥同和問題の解決に必要なこと</p> <p>①差別をなくし人権を大切にす教育や啓発の充実 25.8%</p> <p>②自然消滅 11.9%</p> <p>③相談窓口の充実 8.5%</p>	<p>●教育や啓発に対する期待は高く、学校と地域が連携を図り、研修や啓発を進めていかなければならない。</p> <p>●根強い差別の実態を理解していれば、自然消滅はありえないことがわかる。正しい知識を学び、自分のこととして捉える啓発が必要である。</p>

7.外国人の人権について

<p>【現状】</p> <p>○特に問題だと思うこと</p> <p>①外国語で対応できる行政相談窓口や病院・施設が少ない 16.8%</p> <p>②施設・道路の外国語表記など、暮らしやすいまちになっていない 12.3%</p> <p>③地域の人との交流など理解を深める機会が少ない 11%</p>	<p>【課題】</p> <p>●①②は、少なくとも公的機関では早急に整備する必要がある。</p> <p>●①については、タブレットの活用などで対応できる。計画にどこまで具体策を盛り込むか要検討。</p>
--	--

8.エイズ患者やHIV感染者の人権について

<p>【現状】</p> <p>○特に問題だと思うこと</p> <p>①正しい認識や理解が十分でない 31.3%</p> <p>②相談・支援体制が十分でない 15.1%</p> <p>③差別的な発言や行為 14%</p>	<p>【課題】</p> <p>●認識や理解が十分でないという回答が多い。引き続き周知活動をしていく必要がある。</p> <p>●相談・支援体制を整えていく必要がある。</p>
--	--

8.ハンセン病回復者の人権について

<p>【現状】</p> <p>○特に問題だと思うこと</p> <p>①怖い病気といった誤解がある 21.3%</p> <p>②社会復帰が困難 14.5%</p> <p>③じろじろ見たり、避けたりする 12%</p>	<p>【課題】</p> <p>●偏見や誤解を生まないよう、正しい知識を習得する必要がある。</p> <p>●相談・支援体制を整えていく必要がある。</p>
--	--

9.インターネットを悪用した人権侵害について

【現状】	【課題】
<p>○特に問題だと思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ①悪口や差別的な表現を掲載する 25.5% ②一度掲載されると拡散し、完全消去が困難 20.7% ③法的規制が不十分、違法な情報発信者に対する監視・取り締まりが不十分 16.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ●他人への誹謗中傷、無責任なうわさ、プライバシーに関する情報の無断掲示、差別的な書き込みなど、人権やプライバシーの侵害につながる情報が流れている。 ●情報モラル指導事例集を作成し各学校に配付するとともに、情報モラル教室を開催し、メディアとの付き合い方について考えるとともに、自ら責任をもって行動しようとする実践意欲の育成に努めている。

10.性的少数者の人権について

【現状】	【課題】
<p>○特に問題だと思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ①社会的理解が低いため、誤解や偏見がある 31.4% ②いやがらせや差別的言動 14.1% ③地域社会・職場・家庭・学校などで排除され、孤立する 12.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ●偏見や誤解を生まないよう、正しい知識を習得する必要がある。 ●相談・支援体制を整えていく必要がある。